



TAKENOMARU Annex

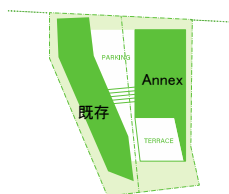
空間の多様さによる持続的住環境

伊藤 博之 建築学部 建築デザイン学科 教授

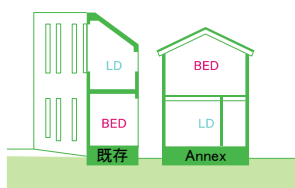
キーワード: 持続性、木造、不燃化、新築

概要

2013年に竣工した住宅に隣接する別棟の計画。10年を経て、新に取得した隣地に住環境を拡張することとなった。当面の生活上の必要としては、子供室を広げること、ワークスペースを拡充することの2点であった。独立した住居として作れば不燃化推進の補助金が受けられること、将来独立した2世帯がそれぞれ使う可能性も考慮して、別棟(Annex)として計画することとした。



配置図



断面図



既存棟外観



既存棟2階

アピール ポイント

Annexには大きな屋根付きテラスを道路から1.5mほど下がった谷側に設け、このテラスおよび駐車場を介して新旧両棟が一体的に利用できるようにした。既存棟は2階がコモン、1階が寝室であるが、Annexではそれが逆になることで、様々な部屋の関係と性格が生まれている。

当面の使い方に対応した計画になっているが、子供室が必要な期間はそれほど長くないし、仕事の仕方は変わるかもしれない。使い方はできる限り想定しながらもそれに依存し過ぎず、できるだけシンプルな方法で、相互に関連しあう様々な様相の空間を用意することを目指した。

母屋は間口が細いが、室内は明るく眺めが良い。一方、Annexは間口が広く、光は限定的である。それぞれの上下階でも性格の違いが意図的に与えられている。壁や屋根、柱や連続する梁などが、相互にずれながら重なり、内外の場所をつないでゆく。母屋を含んだ地形や眺望を生かしつつ、できるだけ多様な場を内外に作り出すことで、状況と必要に合わせて住み続けられる住宅になると考えている。



左がAnnex



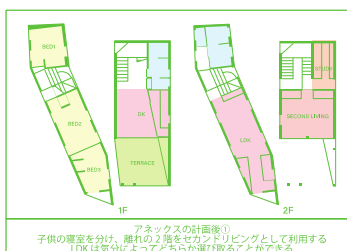
テラスより見る

階段より見る

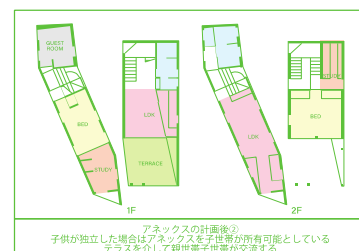
現状の使い方と
想定される使い
方の例



現状
本来個室として利用していた場所を書斎としている
そのために子供室が確保を有している



①
Annexの個室を分け、廊下の2階をセカンドリビングとして利用する
LDKは気分によってどちらか選び取ることができる



②
Annexの計画後
子供が独立した場合はAnnexを子供室が所有可能としている
テラスを介して親田舎子田舎が交流する

● 関連 URL = TAKENOMARU(既存棟) http://ito-a.jp/?page=work_detail&id=140
伊藤博之の研究室HP <https://itostudio-homepage.com/>

工学院大学 産学連携室

〒163-8677 東京都新宿区西新宿一丁目24番2号 〒192-0015 東京都八王子市中野町2665-1

TEL:03-3340-0398 FAX:03-3342-5304

TEL:042-628-4928 FAX:042-626-6726

E-Mail: sangaku@sc.kogakuin.ac.jp URL: <https://www.kogakuin.ac.jp>